

# 平成 27 年度 アリアーレビューティー専門学校

## 学校関係者評価報告書

学校法人愛知理容学園 アリアーレビューティー専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 27 年 11 月 10 日に「平成 26 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成 27 年 11 月 10 日

学校法人 愛知理容学園  
アリアーレビューティー専門学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 池山英一（アリアーレビューティー専門学校 理事長・校長）
2. 福澤壽和（愛知理容生活衛生同業組合 理事長）
3. 國島徳博（株式会社インテンド 代表取締役）
4. 廣瀬麻美（理容ヒロセ）
5. 尾関之一（ベリーバイヘアースポットオゼキ）
6. 近藤文峰（第一学院高校教諭）
7. 川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）
8. 岩田壮介（名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校事務長）

#### ●オブザーバー（本校教職員）

山口 孝、森山 郁子、福本 稔巳

## 2. 平成 27 年度 自己評価 (平成 26 年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：(両学科) ほぼ適切</p> <p>課題：(両学科) 専門分野の特性が明確になっているものの、実際の取り組みが弱い。また、学生・保護者の学校教育への理解が浅く、さらなる周知が必要。</p> <p>改善：現在、保護者会、学校公開の実施回数を増加。また、期間、回数等インターンシップの充実化を図り、業界等との協調体制を深める。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：(両学科) コンプライアンス、情報公開以外はほぼ適切</p> <p>課題：(両学科) 運営方針、事業計画をしっかりと知る必要がある。</p> <p>改善：各責任者間のミーティングの徹底及び職員会議、職員と役員のコミュニケーションを図る。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。</p> <p>課題：(両学科) 理容美容ともに教育団体・外郭団体とのさらなる連携強化が必要</p> <p>改善：理容・美容の垣根なく、相互互換授業の導入を実施。</p>
(4) 学習成果	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。理容・美容共、就職率 100%</p> <p>課題：(両学科) 卒業後の状況把握ができておらず、同窓会的なものも任意で各自バラバラで行われており、把握するのが難しい。他の職種に比べて、離職率が高く業界全体の問題でもあるが、学校でできることは何かを模索。</p> <p>改善：(両学科) 正式な同窓会の立ち上げを検討中。まずは業界組合員の当校卒業生の把握から実施する。また近年の卒業生に関しては卒業後の勤務状況把握強化を実施。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：(両学科) ほぼ適切</p> <p>課題：(両学科) 担任制を生かし、更なる学生との綿密な面談。就職先の増加。</p> <p>改善：(両学科) 家庭訪問、保護者を含めた定期的な面談を実施</p>
(6) 教育環境	<p>評価：(両学科) 適切。</p> <p>課題：(両学科) 避難訓練は毎年行っているが、公共交通機関の不通等、県外遠方者が多く、帰宅困難者への安全確保。毎年海外研修に行っているが、しっかりとした提携校がない。</p> <p>改善：(両学科) ロンドン「ヴィダルサスーン」と連携を深め、出身者を当校に一度呼び出す。</p>

(7) 学生受け入れ 募集	評価：(両学科) 適切。 課題：(両学科) 募集に関してパンフレットの中身を教職員全員が理解している訳ではない。 改善：(両学科) 情報の共有化。学校見学だけでなく、サロン見学を通じて、新しい業界メニューも経験してもらおう。
(8) 財務	評価：(両学科) 適切。 課題：(両学科) 特になし
(9) 法令等の遵守	評価：(両学科) 適切。 課題：(両学科) 国の規制改革の中で、理容師法、美容師法の改正が続く。
(10) 社会貢献・ 地域貢献	評価：(両学科) 適切。 課題：(両学科) 学生だけでなく町内の方にも科目履修性としての幅を広げる。 改善：(両学科) 通常授業外の選択科目は門戸を広げていく。

### 3. 平成 27 年度 学校関係者評価 (平成 26 年度の自己評価についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか等」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか等」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか等」	ほぼ適切である。
(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか等」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか等」	ほぼ適切である。

<p>(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか等」</p>	<p>ほぼ適切である。</p>
<p>(7) 学生受け入れ 募集 「学生募集活動は適正に行われているか等」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか等」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか等」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(10) 社会貢献・ 地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか等」</p>	<p>適切である。</p>

#### 4. 学校関係者評価 総括と課題について

<p>自己評価結果についての全体的な評価・意見等</p>	<p>各委員との質疑・応答の中で半分以上は既に実施・検討をしているものがあったが、それでも相当数やらなければならない事が見付き、今後、課題を解決しつつ改善に努めていただきたい。また、各業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会、学校後援会、学校 PTA 等も含め、しっかり議論をしていただき、教育に反映していただきたい。</p>
------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------